

まえがき

中尾正義（総合地球環境学研究所）

オアシス地域研究会報の日本語版としては、ほぼ1年ぶりの刊行となります。本号では、今年の1月に開催した国際シンポジウムでの、西北師範大学の李并成さん、中央民族大学の鐘進文さんおよび民族研究所の色音さんの発表論文を日本語で掲載しました。これらはオアシス地域研究会報第2巻1号に英文で抄録を載せましたが、今回は全文を日本語で掲載しています。はじめの李さん、鐘さんの原稿は中国語で書かれていたものを、地球研の加藤雄三さんと鹿児島大学の尾崎孝宏さんそれぞれに日本語訳していただいたものです。最後の色音さんの原稿はもともと日本語で書かれていたものです。これらに加えて、研究会で発表された福井工大の宇治橋康行さんの原稿を掲載しています。

地球研に所属しているメンバーはとくに、日常的な雑務に追われることが多く、何か機会がないと学問的なことに割く時間が少なくなりがちだという問題がありました。そこで、今年の半ば頃より毎週水曜日に「水曜会」を開催しています。水曜会では、とくにオアシスプロジェクトに深く関係しているにもかかわらず、自分のかつての専門ではないために疑問に思いつつもどう調べたらいいかわからないような疑問や問題点を相互に出し合い、それに対して、最も適当な知識をもつメンバー(外部にお願いすることもあります)が解答するというスタイルの研究会です。多分野の研究者が一同に集まっているという地球研のメリットを生かした研究会だと思っています。開催のご案内は毎回事務局からしていますので、機会を捕らえてぜひご参加ください。

しかし、北は北海道から南は鹿児島まで広く分布している全メンバーが毎週水曜日に毎回集まるということは費用的にも時間的にも難しいため、出席者の多くは地球研に所属しているメンバーとなります。そこで、参加できなかったメンバーにも水曜会の内容を伝えて、その知識を共有したほうが良からうということで、今号から水曜会の内容も掲載することにしました。

今年の年頭を飾って、地球研の加藤雄三さんが読売新聞の元旦版に、オアシスプロジェクトに取り組む若手のホープとして登場しています。また、オアシスプロジェクトのシンボリックな存在でもあり最も古い世界地図ともいえる、元代の情報を基にして朝鮮で作成されたユーラシア全図にかかわる京都大学の杉山正明さんの記事も島原新聞に掲載されています。地球研プロジェクトの成果の発信は、従来の科学のように論文発表すれば事足りるというわけではなく、ひろく一般の人々への還元も求められているところから、関連する新聞記事も散逸を避ける意味でも掲載しておくことにしました。

次号は、今年の4月におこなわれた杉山さんの黒河流域を中心とした過去2000年の歴史の概観の報告を予定しています。ご期待ください。